

「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」 結果速報

鎌倉市では、本年4月～5月にかけて、「共生社会の実現に向けたスマートシティの推進に関する意識・価値観調査」を実施しました。ご協力いただきました市民の皆様、誠にありがとうございました。

本調査について、単純集計の結果がまとまりましたので、速報としてお知らせします。この度の公表内容としては、選択式の設問を対象としており、自由記述は含んでおりません。

また、今後、詳細な集計・分析を行い、確報版の報告書を令和3年10月頃に公表する予定です。

調査の目的

本調査は、以下の2つの目的を兼ねて実施しました。

1. 「スマートシティ」など市が検討を進める施策に関する基礎調査や意識調査の実施

- ・ 鎌倉市では、誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らすことのできる「共生社会」を目指し、人にやさしいテクノロジーの活用によって、市が抱える社会課題を解決する鎌倉版「スマートシティ」の構築に向けて取り組んでいます。
- ・ また、行政のデジタル化の推進に対するご意見や、他にも、地域活動への参加や情報発信(広報)などについても伺いました。

2. 市民アンケート調査において、回答率を向上させる手法・価値の共同研究

- ・ 調査回答率を向上させることで、従来手法よりも、より多くの意見を集め、より多様な意見を反映したまちづくりを進めることを目指した研究です。
- ・ 株式会社ドリームインキュベータ(本社:東京都千代田区、代表取締役 社長 COO: 三宅孝之)との間で協定書を締結し、共同研究を実施しました。
- ・ 調査の実施に当たって、住民基本台帳から無作為に抽出した2グループを形成し、一方にのみ回答率向上に寄与する複数の方法を用いて実施し、結果を比較しました。
- ・ 結果から、「施策により回答率がどの程度向上するか」、「回答率が高いグループと、低いグループを比較した際、意見分布に差異があるか」を検証しました。

調査の成果 のポイント

1. 回答率向上の手法・価値の共同研究について、一定の成果を得ることができた。
 - ・ 回答率を約30%高めることができ、2グループ間で意見分布の差異もみられた
 - ・ 大学等とも協力しながら詳細を分析し、共同研究の成果として公表予定
2. 市民のデジタル環境やデジタル化推進への意向を広く聴取でき、今後のスマートシティ推進や、デジタルディバイド(情報格差)の解消に向けた参考資料として活用する。
 - ・ インターネットや通信機器に関する環境、デジタル推進への認識や不安を把握
3. 市民のコミュニティへの参加状況や不安を、共生社会実現に向けた取組検討に活かす。
 - ・ 地域コミュニティへの参加意向や、困りごとを相談できる相手がいるか、などを把握
4. 新型コロナウイルス流行による市民生活への影響を把握できた。
 - ・ 困りごとや不安、ライフスタイルの変化などを把握

I. 調査の概要

調査項目

1. 新型コロナウイルス流行による影響について
2. インターネット・情報通信機器の利用状況について
3. スマートシティと行政のデジタル化の推進について
4. 鎌倉市の情報発信について
5. 鎌倉市の推進する共生社会について
6. 地域活動への参加について
7. マナーや規制と価値観について
8. あなたの考え方・価値観や、あなた自身のことなどについて

調査設計

1. 調査地域 鎌倉市全域
2. 調査対象 満 18 歳以上の市民(2021 年3月1日時点)
3. 調査対象数 4,000 人(各 2,000 人の A グループ/B グループ)
4. 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
5. 調査方法 調査依頼を郵送し、回答は郵送回答又はインターネット回答
 - ・ 満 65 歳未満は郵送依頼・インターネット回答
(ただし、郵送回答希望者には別途調査票を送付)
 - ・ 満 65 歳以上は郵送配布・郵送回答

<回答率向上施策>

A グループのみ、以下の手法を実施

① 事前協力依頼

調査対象者に、回答依頼の6日前に、調査対象者になった旨を通知し、協力を依頼。

② 督促

調査締切後、未回答の対象者に改めて協力を要請するとともに、締切を延長。

③ 謝礼

締切までに回答を頂いた全回答者に、クオカード 300 円分を贈呈。さらに、早期回答者(発送後 9 日以内)へは 200 円分を追加し、全体の回答率目標(70%)を達成した場合には、全回答者にさらに 200 円分を追加。

6. 調査期間 4 月 16 日(金)~4 月 30 日(金)
 - ・ A グループのみ、督促実施後 5 月 21 日(金)へ延長

実施機関

- 株式会社ドリームインキュベータ
- ・ 調査にかかる費用はすべて同社が負担

回答結果

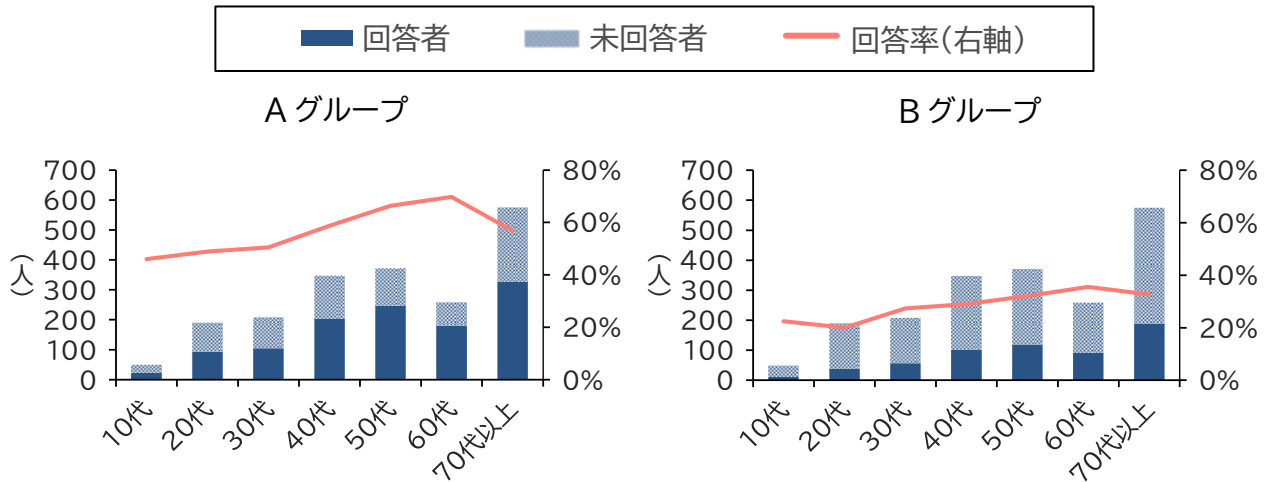
- | | | |
|--------|-------------|-------------|
| A グループ | 有効回答数 1,188 | 有効回答率 59.4% |
| B グループ | 有効回答数 609 | 有効回答率 30.5% |

II. 研究のための実証実験の結果

■ 結果のポイント

1. 回答率の向上について

回答率向上施策を行った A グループでは回答率は 59.4%、行っていない B グループでは 30.3%と、約 30%の差が生じました。世代別にみると、概ねどの世代でも 2 倍程度に回答率が向上しています。



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
A グループ	46.0%	48.9%	50.5%	58.8%	66.4%	69.8%	56.9%
B グループ	23.6%	28.9%	23.1%	29.8%	34.3%	34.2%	24.2%
差分(A-B)	22.4%	20.0%	27.4%	29.0%	32.1%	35.5%	32.7%

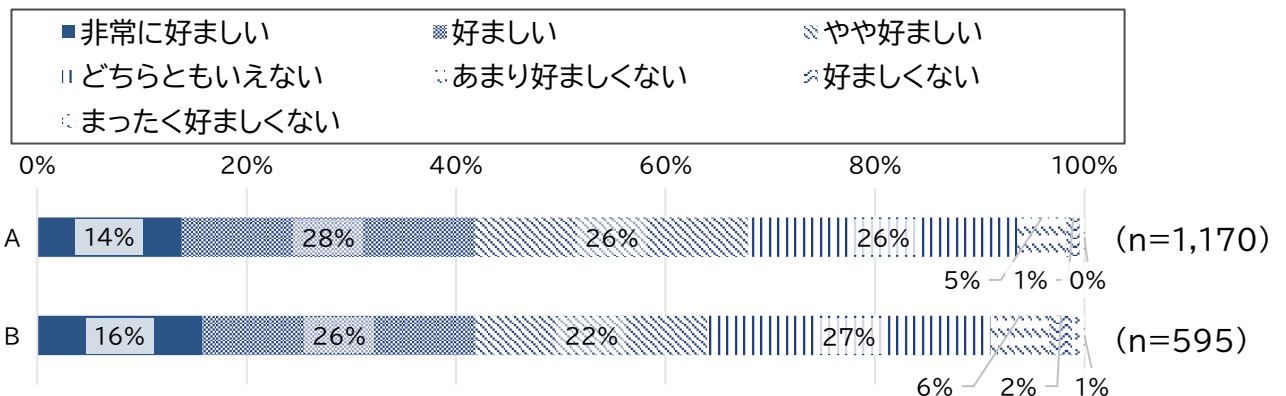
2. 意見分布の差分について

詳細は現在分析中ですが、意見分布を調査するための設問項目(問 18、19)において、以下のような傾向が見られています。

- ① A グループの方が極端な意見がやや少なく、中庸な意見が多い
- ② A グループの方が、反対意見がやや少ない

問 18 あなたは、社会のデジタル化の進行に関して、どのような印象を持っているか
教えてください。(1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 21



Ⅲ. 意識・価値観調査自体の結果

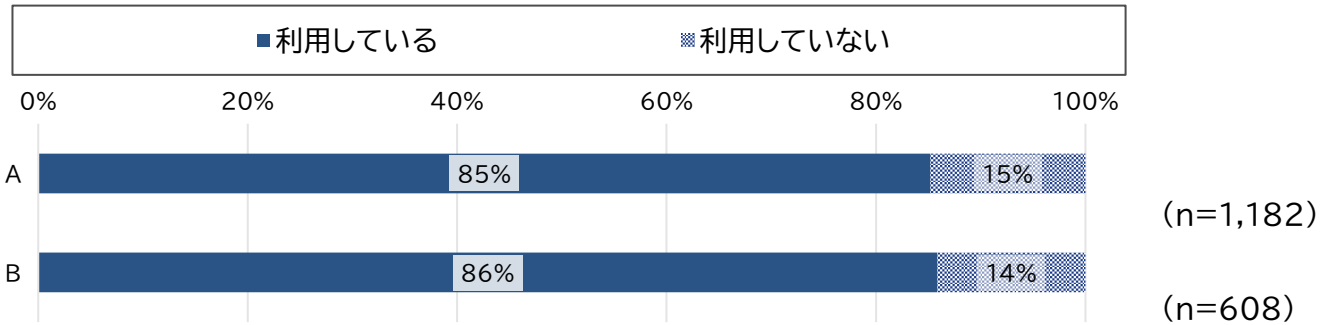
■ 結果のポイント

1. 市民のデジタル環境について

- ① インターネットを利用していると回答した人は A グループで 85%、B グループで 86% という結果でした。

問6 あなたは、インターネットを利用しているか教えてください。(1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 4

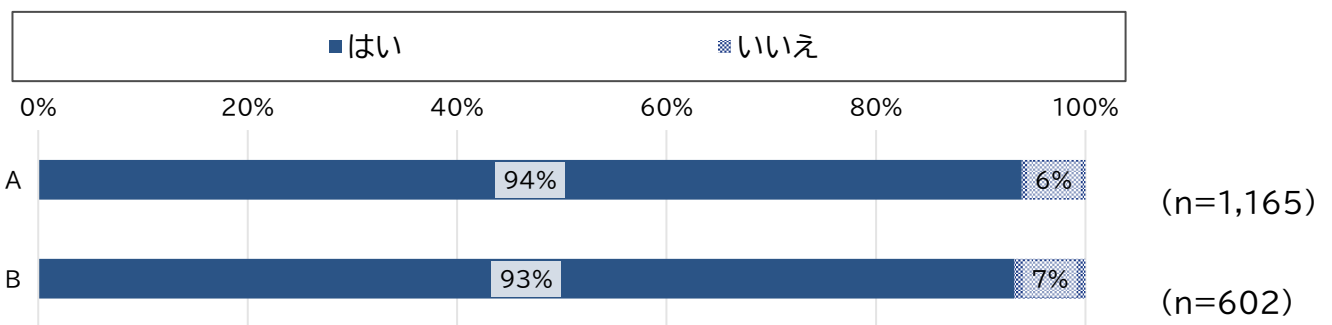


- ② スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかを所有していると回答した人は A グループで 94%、B グループで 93% という結果でした。

問8 あなたは、スマートフォン、タブレット、パソコンの内、1つ以上の機種をお持ちですか。

※「持っている」とは、自宅にあることを指し、家族で共通の1台を使用している方も含みます。(1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 8

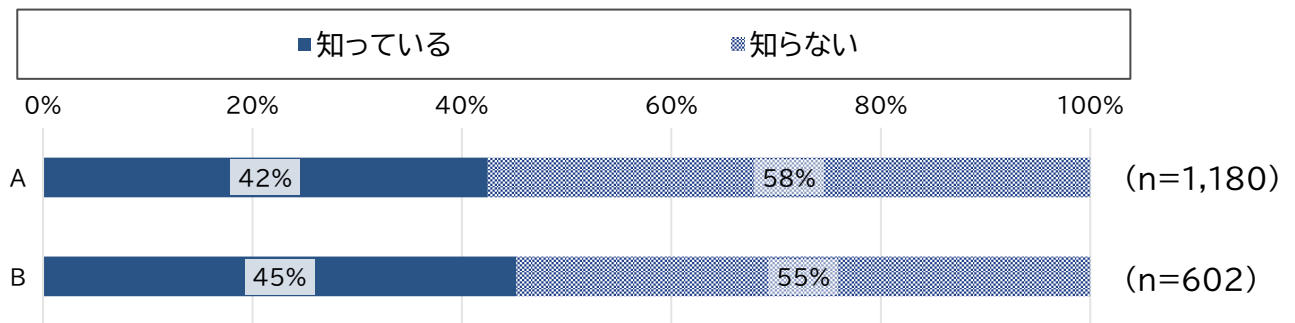


2. スマートシティと行政のデジタル化の推進について

- ① スマートシティという言葉を知っていると回答した人は A グループで 42%、B グループで 45%という結果でした。

問17 あなたは、スマートシティという言葉を知っているか教えてください。(1つ選択)

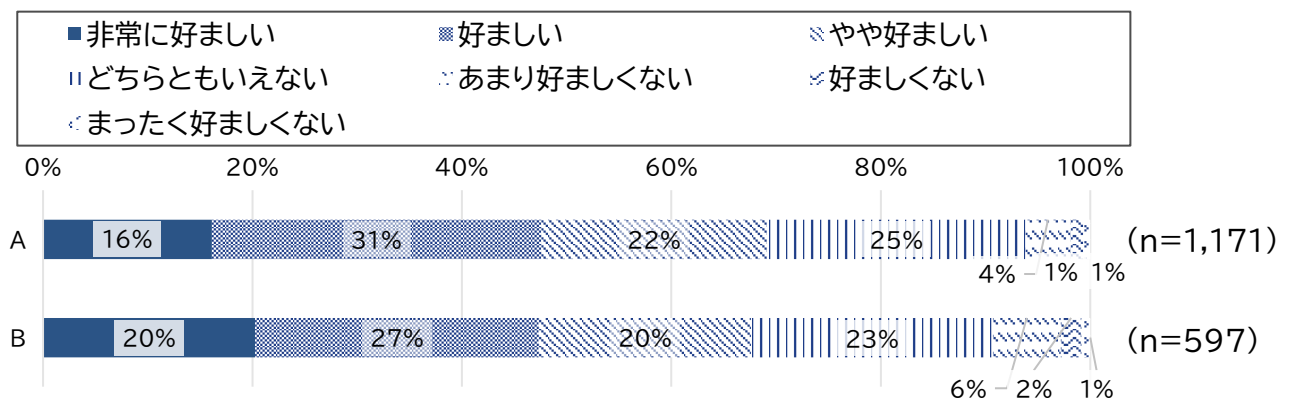
… 別紙 単純集計表 P 21



- ② 鎌倉市のデジタル化推進に好ましいと回答した人は A グループで 70%、B グループで 68%、一方で好ましくないと回答した人は、A グループで 6%、B グループで 9%という結果でした。

問19 あなたは、鎌倉市がデジタル化を推進することに関して、どのような印象を持っているか教えてください。(1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 21



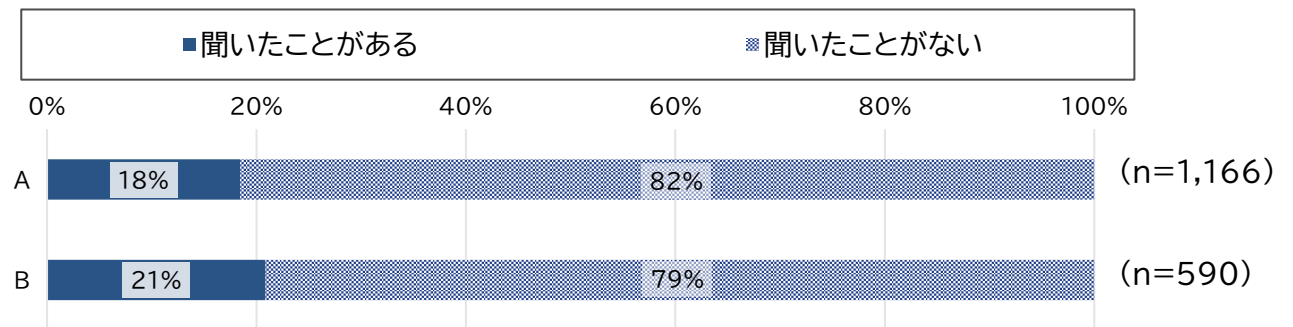
3. 鎌倉市の推進する共生社会について

- ① 共生社会への取り組みを聞いたことがあると回答した人はAグループで18%、Bグループで21%という結果でした。

問40 あなたは、鎌倉市の共生社会への取組を聞いたことがあるか教えてください。

(1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 38

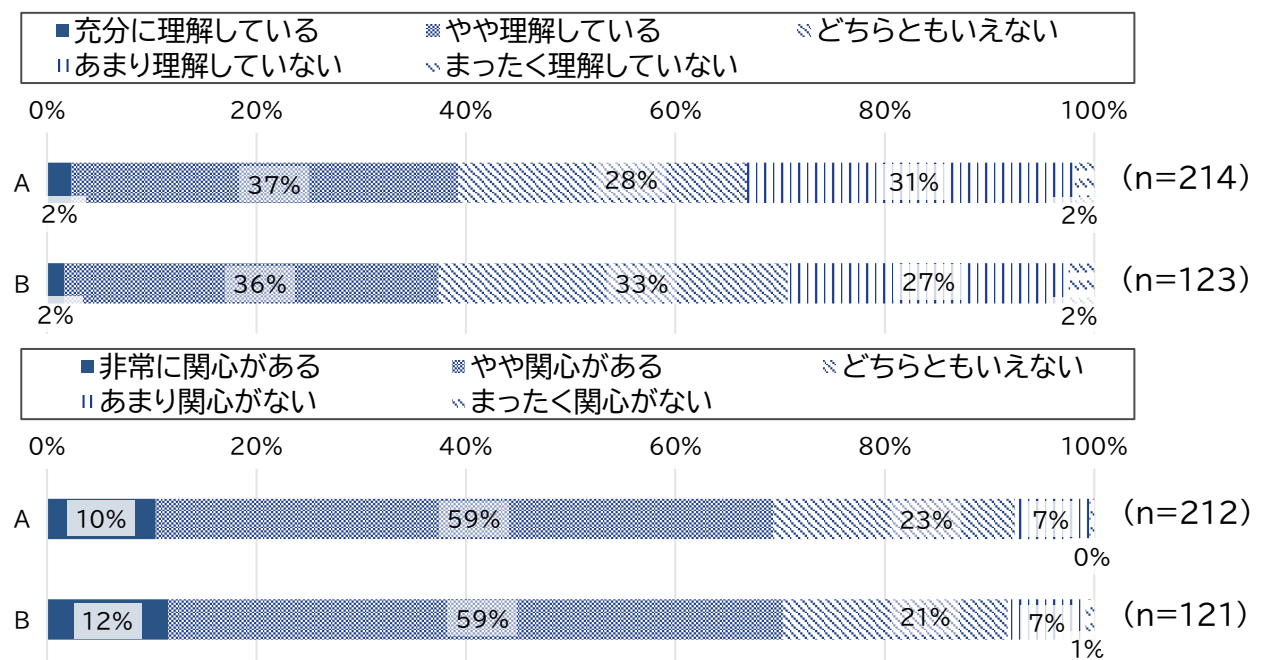


- ② 共生社会について「聞いたことがある」と回答した人のなかで、「理解」に関して、理解していると答えた人はAグループで39%、Bグループで37%、一方で理解していないと答えた人はAグループで33%、Bグループで29%という結果でした。
「関心」に関して、関心があると答えた人はAグループで69%、Bグループで70%、一方で関心がないと答えた人はAグループ、Bグループともに8%という結果でした。

問40-1 あなたは、鎌倉市の共生社会への取組について、どの程度理解・関心がありますか。

次の中から当てはまるものを選んでください。(それぞれ1つ選択)

… 別紙 単純集計表 P 38



4. 新型コロナウイルスによる影響について

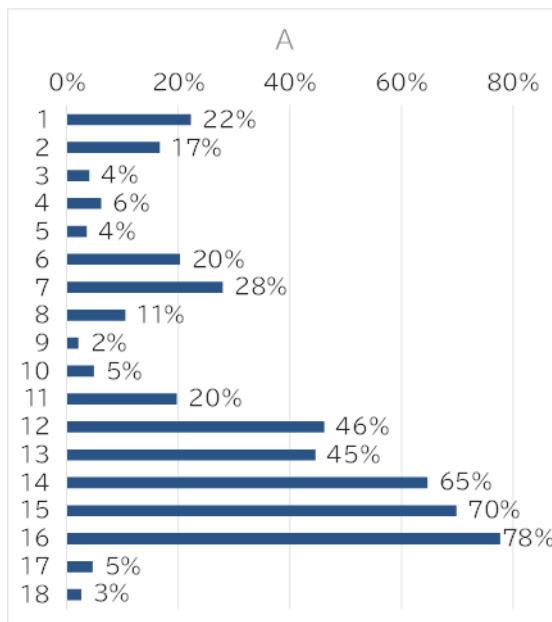
① 困りごとや不安では、最多の回答は「外出時の感染リスク」で、Aグループでは78%、Bグループでは75%という結果になりました。

問1 昨年から流行している新型コロナウイルスによる困りごとや不安を教えてください。

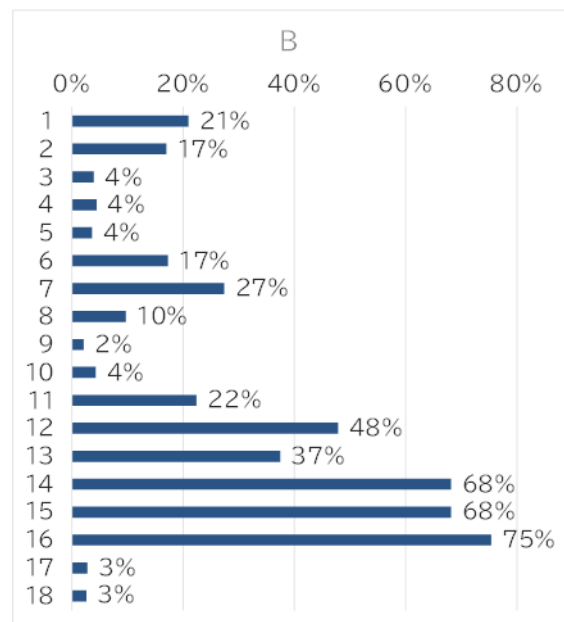
(いくつでも選択)

… 別紙 単純集計表 P 2

1 収入の減少	7 健康悪化(身体・精神)	13 運動・スポーツの機会減
2 支出の増加	8 学習機会・学力低下	14 交流機会の減少
3 失業	9 子どもの預け先確保	15 外出時の制限
4 過重労働	10 介護の負担増	16 外出時の感染リスク
5 働き口がない	11 地域活動の停滞	17 その他
6 働き方の変化	12 文化芸術にふれる機会減	18 特にない



(n=1,180)



(n=606)

以上